令和３年３月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第679号

林業福島

No. 679

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

3
2021

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■今日も頑張った

山村の活性化に向けて

福島県町村会長
磐梯町長　佐　藤　淳　一

皆様方には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

昨年来から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は未だ収束が見通せず、国民生活や社会経済活動に極めて深刻な影響をもたらしております。

このような中で、感染収束への切り札として期待されるワクチン接種が医療従事者を対象に先行して始まり、その後、市町村が実施主体となって順次進められることになっております。住民の方々が安心して円滑に接種ができるよう医療関係者と連携しながらしっかりと対応してまいります。

さて、東日本大震災・原発事故から間もなく十年が経過いたしますが、福島県沖を震源とする大地震が先月発生するなど、大規模な自然災害が全国各地で毎年のように発生しております。

震災の復興に向けては、四月から新たに「第二期復興・創生期間」が始まり、この五年間で地震・津波被災地域は復興の完遂を目指すとともに、原子力被災地域は新たな課題にきめ細かく対応しながら、本格的な復興・再生への取組が進められることとなっております。

私どもは引き続き本県の復興の加速化に取り組んでまいる所存であり、森林の再生に関しましても、林業・木材産業の活性化等を図る上で不可欠な「ふくしま森林再生事業」をはじめとした各種復興施策の継続や中長期的な予算の確保を国に強く求めてまいります。

また、国は現在、ＩＣＴ等を活用したスマート林業や森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する森林サービス産業を推進しておりますが、これらの事業は山村に新たな雇用や関係人口を創出するものとして大いに期待されているところであり、併せて本県では令和四年四月に林業アカデミーふくしまの本格開講を予定しているなど、林業の人材育成に向けた施策が進展しております。

さらに近年、都市から山村をめざす田園回帰の動きや、コロナ禍における山村でのリモートワークやワーケーション、二地域居住が活発化していることから、この流れをさらに加速させるため、森林・山村対策に係る財政支援措置の拡充や定住・二地域居住等の環境整備への支援について、引き続き国に要請していきたいと考えております。

福島県町村会といたしましては、今後も関係団体との連携を強化しながら、山村地域の活性化が図られるよう取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《もくじ》

とびら
山村の活性化に向けて
　福島県町村会長　磐梯町長　佐　藤　淳　一…1
福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム
　「福島の森と木の親子体験オンライン教室」を開催…2
令和2年度林業普及指導員全体研修会・
　林業研究グループ等活動発表会を開催しました…3
令和２年度福島県森林自己学習支援事業
　成果報告会を開催しました……4
馬搬材の木工製品の普及を糸口に
　県民が親しめる福島の森づくりへ……5
「会津桐」次世代への継承……6
緑の募金のご協力よろしくお願いいたします…7
普及指導員通信……8
森連だより……9
きのこセンターだより……10
木の文化を育む㉔……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム

「福島の森と木の親子体験オンライン教室」を開催

（一社）全国林業改良普及協会

平成二六年度より継続してきた林野庁の「避難指示解除区域等の林業再生に向けた普及啓発事業」シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和二年度は初のオンライン開催となりました。令和二年十二月二〇日、東京都港区エコプラザからオンライン・ライブ配信しました。

対象は昨年に続き親子（小学校高学年以上）とし、福島県・東京都を中心とした全国五〇〇家庭一、二〇〇人超の参加者は、事前に各家庭に配布されたナメコ栽培キットを約二週間育てながら、動画で放射性物質の基礎知識について事前学習をし、当日に臨みました。

動画による「時間と場所を選ばない普及」を目指して、ライブ配信は次の三つのプログラムに絞り、このほかに各家庭で事前及び事後に学ぶことができる動画コンテンツを多数用意しました。①福島の森のハカセになろう！（森林内の放射性物質の状況について研究者が解説）、②森のめぐみ収穫体験（きのこ生産について生産者の話を聞いた後、各家庭で育てたナメコを収穫）、③森に親しもう！（森でできる様々な体験を紹介）。

初のオンライン開催ということで、対面での実施と比べて伝わりにくいのではないかといった不安もありましたが、当日の参加者の様子とアンケート結果から、オンラインならではの良さも見えてきました。

まずは、九〇分の配信の間に、チャットの書き込みが絶えることがなく、大変盛り上がりました。オンラインでは子どもの集中力が続くか心配されましたが、講師からの「ドングリのなる木はどれでしょう？」という投げかけに参加者がチャットで回答したり、逆にチャットの質問に講師が答えたりと、双方向のコミュニケーションを心掛けました。参加者のリアクションも非常に楽しそうでしたが、更にアンケートにも、「子どもがチャットへの書き込みやチャットの閲覧、講師のリアクションを大変楽しんだ」、「自宅で親子でリラックスし、話しながら参加できたことが大変良かった」などのコメントがあり、家庭内で「気軽におしゃべりしながら参加できる」オンライン方式の強みが、満足度に大きく寄与していたと言えます。

また、「キノコ嫌いの子が、育てたナメコを美味しそうに食べて驚いた」というコメントからは、自宅でナメコを栽培したことで、キノコへの親近感・理解が醸成された様子が伺えました。このほかにも、「福島の森に遊びに行きたい」などの行動につながる声も多数寄せられ、次世代を担う子ども達とその保護者に、福島の実情、森のことを伝え、理解者・応援団を増やしていく機会となったと考えています。

最後になりますが、福島県はもちろん、福島市と港区には市区内の全小学校に告知チラシを配布頂く等、多大なるご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

港区エコプラザからの配信の様子

参加者代表ゲスト：「YouTuberでこんなに木を使っているのは日本で僕ぐらいしかいない」と言うYouTuberすしらーめん《りく》さん。木材も駆使した自作の装置による実証動画と、遊び心あふれるチャンネルは、登録者数545万人。今回、震災当時にボランティアもした思い出の浜通りへ足を運び、小学校で放射線の学習、林業・木材市場体験、自宅で５種類のキノコ栽培も経験し配信当日に臨み、配信を盛り上げてくれました。

「福島の森のハカセになろう」では葉や木等の線量測定も実施／森林総合研究所　篠宮講師（写真左）、小松講師（右）

「森のめぐみの収穫体験」鈴木講師（左：ナメコ生産・郡山市）、渡邊講師（右：シイタケ生産・三春町）

参加者からいただいたナメコ収穫・料理、木工体験キットの写真（事務局ツイッターより）

りくさんと講師陣の掛け合いも楽しい配信当日の様子、小学校での学習や林業体験等の映像はこちらのホームページからどうぞ。

令和二年度　林業普及指導員全体研修会・林業研究グループ等活動発表会を開催しました

福島県林業振興課

令和二年度林業普及指導員全体研修会を、令和三年二月九日(火)に県自治会館で開催し、県内の各普及地区の代表者八名が、日頃の普及活動の取組についての活動発表を行いました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、参集範囲を各普及指導地区からの代表発表者、審査委員及び事務局員に制限して行いました。

今年は、ＩＣＴ、施業の集約、早生樹等を活用した森林整備の再生・加速化に向けた取組、労働安全衛生対策の推進に向けた取組、虫害対策に向けた取組などが報告され、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わされました。

発表会の審査の結果、最優秀賞には油井竜太さん（県北農林事務所）、優秀賞には菅野陽美さん（富岡林業指導所）が選ばれました。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。

●お手軽ＩＣＴの普及による地域課題解決に向けた取組
（県北農林事務所　主任主査　油井竜太）

●田村市における森林整備の推進に係る取組について
（県中農林事務所　主査　蓮沼正将）

●森林整備における労働安全衛生対策の推進
（県南農林事務所　主任主査　飯沼良弘）

●森林整備補助事業を活用した利用間伐による森林整備の推進
（会津農林事務所　主任主査　加藤　修）

●高野地区における水源林と私有林の一体的な森林整備の取組
（南会津農林事務所　主査（キャップ）　東村真太郎）

●林業教室の実施
（相双農林事務所　林業課長　佐藤　淳）

●緑の文化財のナラ枯れ被害対策について
（富岡林業指導所　主査　菅野陽美）

●急傾斜地における「架線系作業システム」の普及
（いわき農林事務所　主任主査　髙橋伸二）

林業普及指導員の活動発表の様子

また、令和二年度林業研究グループ等活動発表会については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、書面により審査を実施しました。この発表会は、県内各地の自主的な実践活動を行っているグループが、その活動内容を発表することにより、各林業研究グループの活動の展開に資することを目的に開催しています。

今回は五団体から、森林環境学習・体験活動や里山等の整備や林業従事者の伐採技術の向上、里山資源の活用、小・中学校と連携した地域林業の振興に向けた取組など、様々な活動について発表がありました。

令和三年二月二五日(木)に実施した審査会の結果、最優秀賞には緑川平隆さん（田人林業研究会）、優秀賞には五十嵐乃里枝さん（一般社団法人会津自然エネルギー機構）、特別賞には宝力絢さん（会津香りプロジェクト）が選ばれました。

各グループの発表課題は、次のとおりです。

●町民憩いの場「三春花の丘公園」づくり
（特定非営利活動法人三春楽しい地域づくりの会　理事長　内藤　忠）

●おもてごう里山クラブ「里山活用の歩み」
（おもてごう里山クラブ　代表　穂積隆一）

●特殊伐採等技術伝承研修会の開催
（一般社団法人会津自然エネルギー機構　代表理事　五十嵐乃里枝）

●アロマ蒸留スタディツアー
（会津香りプロジェクト　宝力　絢）

●田人小・中学校との連携した活動
（田人林業研究会　緑川平隆）

福島県森林環境税（以下「県森林環境税」は平成十八年度に創設され、森林環境の保全と森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成を目標に、水源地域の森林整備や地域住民による里山林の整備支援、小・中学生を対象とした森林環境教育、木材利用の推進などに取り組んできました。

県森林環境税を活用した取組については、令和三年三月末までとする条例改正が行われ、令和七年度まで、取組が行われることになりました。

県森林環境税を活用した取組について、随時紹介していきます。

令和二年度福島県森林自己学習支援事業成果報告会を開催しました

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

令和三年二月六日(土)令和二年度福島県森林自己学習支援事業成果報告会をオンラインで行いました。

本事業は県森林環境税を活用した補助事業で、大学生など二〇歳前後の若者で構成されるグループを対象に、補助金を交付し、ふくしまの森林に対する関心と理解の拡大に向けての自己学習を支援することを目的としています。アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局では、そんな学生グループの支援や今回の成果報告会の開催などを行っています。

○報告会

今回、活動報告を行ったのは郡山女子大学家政学部の皆さんで構成される、ナチュラルライフスタイル部（以下「NLS部」）です。NLS部の「こおりやま開成の杜復活プロジェクト」では、東日本大震災以降、放射線等の影響で活用が難しくなってしまった学校林「郡山開成学園総合教育園（郡山市熱海町石筵）」の放射線量測定や環境調査などを実施し、森林利用のためのプログラムづくりに向けて活動しています。

今年度の活動では動植物やきのこの調査、里山の整備活動などを行いました。

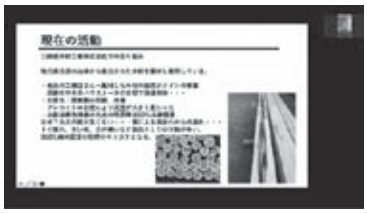
震災から十年が経過する「郡山開成学園総合教育園」の状況として、一部の敷地内のきのこでは放射性セシウム濃度が食品の基準値を上回っていた(※)ことや、リスやカモシカ、サル、クマなど多くの動物が生息していることを報告しました。（詳細は十一ページをご覧ください。）

今後もこのような環境調査や里山の整備の継続を行い、震災前のように子ども達が安心して遊ぶことのできる場所にするために、活動を続けていくとのことでした。

○勉強会

勉強会では、南会津町にある関根木材工業株式会社代表取締役の関根健裕氏にご講演いただきました。関根氏は南会津町に生まれ、大学進学で一度県外へ出られましたが、後に地元に戻り、家業である関根木材工業株式会社を継がれました。本業である木材店の他にも、一級建築士、ブルワリー（ビールの醸造所）のオーナーなど様々な顔を持つ方です。

南会津町で林業に関する様々な活動をされてきた関根氏ですが、これまで行ってきた取組の原動力は、すべて、地域を元気にしたいという思いです。地域の山林の荒廃、産業の衰退に歯止めをかけたい、地域を元気にしたいという思いから、関根木材工業の事業で使用する木材のうち、南会津産木材の利用率を10％からほぼ100％に引き上げたという実績があります。特に関根氏が自ら設計する家造りにおいては南会津産木材を95％以上利用しており、これだけ木材のトレーサビリティを保障できるのは他社ではなかなか難しいとのことでした。



また自身が経営するブルワリーでは、地元の特産物（リンゴやトマト、木材）を利用したクラフトビール作りで、南会津町に新たな産業を生み出してこられました。

関根氏の取組から、森林に関わるといっても林業だけではなく、建築やクラフトビールなど工夫次第で様々な関わり方ができることを、今回の勉強会を通して知ることができたのではないでしょうか。

福島県森林自己学習支援事業は、来年度も行われる予定ですので、学生のみなさんは、是非この制度を活用して、ふくしまの森林をフィールドに活動していただきたいと思います。

※郡山市の野生きのこは出荷制限がかかっています。

福島県森林自己学習支援事業とは

福島県森林環境税を活用し、県内の大学等におけるサークル活動など、グループ等による森林に関する自己学習を推進するため、一団体あたり三〇万円を上限に補助金を交付する事業です。森林づくり活動等を行う大学生グループ等を支援し、県民一人ひとりが参画する森林づくりを進めます。

現在、令和三年度の募集を行っております。

・第一回目　令和三年二月二二日から三月十二日まで

・第二回目　令和三年四月十九日から五月十四日まで

詳しくは

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/shinrinkankyouzei/r3jikogakusyu.html

農林水産部森林計画課

〇二四（五二一）七四二五

馬搬材の木工製品の普及を糸口に県民が親しめる福島の森づくりへ

福島大学　食農学類　農林資源経済学研究室
ふくしま馬搬ネット　会長　林　薫平

○都市住民が親しめる森林と林業を

前回（本誌一月号）の本欄では、本県・石川郡古殿町の馬事振興会に、大型の輓馬「フルード」君を迎え入れたことをきっかけに、地元に馬搬（ばはん）という人馬一体の希有な林業技術が再生されていることを紹介しました。

昨年十月に開催した、ふくしま馬搬ネットの「馬搬見学交流会」では、いわきのパルシステム生協の組合員の皆さんを始めとして、町外からも多くの参加があり、古殿町の森林と林業、そして馬搬に親しんでもらえたことが大きな成果でした。

あいにく、新型コロナ感染症対策に注意が必要であることから何かと制限された中での開催となりましたが、むしろそのような状況のもとだからこそ、都市部からの参加者の多くは、人口稠密な都市を離れた山村の環境の良さに驚かれたようでした。

また、山村の林業や木材産業が守られることで、都市を取り囲んで守っている森林や水資源も維持することが可能となっているのだと、改めて実感していただいたと思います。

このような都市との交流をより太くしていくために、馬搬技術を用いて産出した木材「馬搬材」を活用していくことが大事であると、馬搬ネットでは考えています。一つの試みとして、今回の見学交流会で伐採した古殿杉の大径材を用いて、無垢材のベンチを製作しました（**写真１**）。

この杉は、やわらかい木肌と木目が特徴です。座ってみると心地がよく、杉のぬくもりが生かされ、よい出来になりました。記念品として、地元の道の駅や温泉旅館などの人の目にふれる場所や、いわきのパルシステム生協の交流館や、県民の森「フォレストパークあだたら」（大玉村）などに、設置する予定です。

○馬搬は、森林と木材の個性を生かす

馬搬は、このように、地元だけでなく都市部の人たちが森に親しみをもってもらうきっかけになる取り組みであると同時に、それだけでなく、森林と木材の個性をうまく引き出して生かしていくことにもつながっていくと思っています。

これまでも、古殿町の水野林業では、在来の地杉や山桜の特徴ある木目を生かしたプレートやカッティングボードを試作して提案してきており、県内でも話題にしていました（**写真２**）。馬搬材でも、このような試作や製品の提案を重ね、福島の森林の土地による違いやクセを理解することや、木材一つひとつが一立方メートルいくらで評価されるだけでなく、個性によって評価されていくための糸口にしていきたいと考えています。

試みに九種の木材を福島県の形に浜・中・会津、県北・県南のように組み馬蹄型ホールを開けました（**写真３**）。このように、福島の木材の魅力を凝縮した木工製品を、馬搬材も加えて試作し、広く提案していきますので、ぜひご期待ください。

写真１　馬搬杉材の無垢ベンチで記念撮影。後列左から、馬事振興会の芳賀喜貴さん、鈴木清彦さん、前列左から、パルシステム福島の安斎雄司さん、筆者。

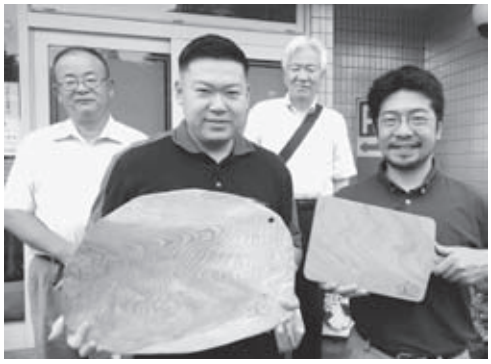


写真２　写真前列左・水野廣人氏（水野林業）、筆者。後列左、会津農林高・須藤聖一教諭、右、県木連・宗形芳明氏。

写真３　圧縮ブナチップのビスケットジョイント工法によるモザイク仕上げ。福島県産のケヤキ、ヒノキ、センノキ、カエデ、クリ、アスナロなどをはめ合わせて福島県の形にした。家守組（猪苗代町）が試作。

「会津桐」次世代への継承

三島町

「桐の里」を称する奥会津の三島町は、最高品質の箪笥材として知られる「会津桐」の産地です。会津桐は国内で生産されている桐の中でも最上級品と謳われており、当町の雪深い気候と只見川が運ぶ豊かな土壌に育まれた桐は、他の桐材に比べて木目が太くはっきりと浮き出ているため、緻密な木目と銀白色の色味の美しさに特徴があります。

会津桐の生産では、安い外国産材に押され、一本三〇〇万円以上することもあった立木価格が十分の一以下に下落し、町内で桐を生産する農家も数えるほどになってしまいました。町では、そうした会津桐の文化を継承すべく、平成二九年度に「桐専門員」を創設し栽培技術の継承と生産者の育成に取り組んでいます。

当町には、その会津桐を使用した総桐箪笥や米びつ、茶筒や桐小物等を製作・販売する会津桐タンス株式会社があります。町では、桐タンス職人の育成を目的として、平成三一年度より地域おこし協力隊一名を採用し、同社へ配属しています。

その地域おこし協力隊が、東京から移住して三年目を迎える植村明恵（うえむらあきえ）さん（20）です。中学時代に北欧家具のデザインに憧れ、都内の高校のインテリア科に進学。授業で知った和タンスの重厚さや精巧なつくりに感銘を受け、タンス職人を志しました。先輩職人指導のもと、道具の扱い方などを一から学んでいます。「カンナをかけ白い表面が出てくるとドキドキする。一つ一つ木目や色合いが違い見ているだけで癒される。沢山の人に知ってほしい。」と会津桐に魅せられています。「昨年は引き出し物の製作に多く携わることで、よりスキルアップできた。」と話す植村さん。規格や大きさを自分で考えながら薬箱や消毒台、ごみ箱、五段引きなどを実際に製作されました。大型家具では、町営住宅へ納品された桐製チェストの製作にも携わったとのことです。大型家具の資材は当然大きくなるため、力不足を感じる時があり、デリケートな桐製品だからこその難しさを痛感しているようです。また、今年の干支にちなんで製作された赤べこの形をした桐の置物や象嵌の技法を用いて赤べこをはめ込んだ絵馬は、大変おしゃれな仕上がりになっています。

これからの目標は、「今まで学んできたことを自分のものにして残りの協力隊としての期間の中で、できるだけ多くのことを吸収し、職人としての技を磨き、製作に生かせるように頑張っていきたい。」と話してくれた植村さん。桐製品を製作する技術を身に付けるためには協力隊での三年間はとても短いと感じているそうです。

会津桐タンス株式会社では、住宅環境の変化で和タンスの需要が減る中、新型コロナの影響で経営もさらに厳しい状況となっていますが、若い人にも桐を身近に感じてほしいと、ティッシュ箱やペンケースなどの新商品開発に取り組んでいます。植村さんには、このコロナ禍を乗り越えるためにも色々なことに挑戦してほしいと期待を寄せているところです。

植村明恵さん

桐製チェスト

製作の様子

赤べこ絵馬

赤べこ置物

令和３年度の緑の募金目標額　7,000万円

緑の募金のご協力よろしくお願いいたします

緑の募金の実績

うつさない、うつらない。
Keep Distance Flex
Green Festival

令和２年度の緑の募金につきしては、コロナ禍にもかかわらず、これまでのところ（４月～１月分集計)、下表のとおり目標額の84％にあたる5,900万円を上回るご寄附をいただくことができました。多くの県民の皆さまの善意に厚く御礼申し上げます。

緑の募金は、緑豊かな潤いのある美しいふくしまを目指し、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに役立たせていただいております。

令和３年度の「緑の募金」春季募金期間は、例年どおり新年度がはじまる４月１日から５月31日までとなりますので、皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

令和３年の緑化運動標語
「ふるさとの　かがやく緑　いつまでも」

〒960-8043
福島市中町５－18　福島県林業会館内
(公社)福島県森林・林業・緑化協会
（緑化推進局　緑化推進課）
TEL 024-524-1480　FAX 024-521-3246

令和２年度「緑の募金」実績（令和２年４月１日～令和３年１月31日）

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金の種類					募金実績額
	街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金	
福島市緑化推進委員会	34,712	0	1,655,009	807,328	752,545	3,249,594
伊達市緑化推進委員会	350	2,039,530	210,000	261,672	15,868	2,527,420
伊達郡緑化推進委員会	4,227	1,018,300	230,000	156,330	0	1,408,857
二本松市緑化推進委員会	3,023	1,415,100	25,000	226,550	0	1,669,673
本宮地域緑化推進委員会	19,627	904,300	231,771	102,754	72,179	1,330,631
国土緑化郡山市推進委員会	25	6,586,551	1,098,110	843,598	741,775	9,270,059
須賀川市緑化推進委員会	0	992	654,340	357,000	156,375	1,168,707
国土緑化岩瀬地方推進委員会	0	467,200	3,730	73,671	44,309	588,910
田村地方緑化推進委員会	8,377	1,827,200	398,500	389,946	30,413	2,654,436
国土緑化石川地方推進委員会	16,033	1,056,050	242,441	232,320	181,381	1,728,225
白河市緑化推進委員会	20,569	1,185,150	605,311	272,655	0	2,083,685
国土緑化西白河地方推進委員会	20,716	1,344,100	381,588	187,458	50,803	1,984,665
国土緑化東白川地方推進委員会	8,291	884,600	203,200	214,228	47,506	1,357,825
国土緑化会津若松市推進委員会	681	3,543,050	441,000	726,038	248,586	4,959,355
両沼地方緑化推進委員会	1,216	1,510,716	139,545	233,389	0	1,884,866
会津耶麻地方緑化推進委員会	2,748	937,700	104,490	181,247	160,333	1,386,518
喜多方市緑化推進委員会	10,005	1,490,700	399,000	498,397	3,545	2,401,647
南会津地方緑化推進委員会	3,697	1,204,180	32,515	186,132	25,139	1,451,663
相馬地方緑化推進委員会	5,109	1,085,123	0	602,698	0	1,692,930
双葉地方緑化推進委員会	0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	9,389	8,178,492	944,132	1,585,256	350,718	11,067,987
小計	168,795	36,679,034	7,999,682	8,138,667	2,881,475	55,867,653
事務局	0	0	2,264,719	1,064,564	0	3,329,283
合計	168,795	36,679,034	10,264,401	9,203,231	2,881,475	59,196,936

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む。

普及指導員通信

田村市における林業の復興に係る取組について

福島県県中農林事務所
林業普及指導員　蓮　沼　正　将

１　はじめに

田村市ではきのこ原木生産を中心に林業が盛んでしたが、原発事故により、大部分の山林で放射性物質の影響を受けました。

きのこ原木の指標値50Bq／kgを超え、出荷再開の見通しがたたないことや放射性物質の影響で森林整備が停滞したため、林業生産が落ち込みました。

そのため、田村市において林業の復興を図るため普及活動に取り組んだので報告します。

２　取組内容

⑴　きのこ原木林の再生

都路地区では原発事故以降、きのこ原木に含まれる放射性物質が指標値を超えたため、生産が停滞しました。そのため、きのこ原木生産の再開に向け広葉樹林再生事業を活用し、原木林である広葉樹林の再生を図るため、従来の更新伐を中心とした施業から皆伐と萌芽更新の組み合わせを中心とする施業に切り替えるよう、普及活動に取り組みました。

今年度は、都路地区で20ha、船引地区で５haの広葉樹林の伐採と萌芽更新を進め、次年度以降も継続して取り組めるよう普及活動を行う予定です。

今後、これらの取組で、震災前に都路地区を中心に行われていた、きのこ栽培用おが粉の生産やきのこ原木生産の復活に期待が持てると考えています。

⑵　一貫作業システムの普及

田村市では、復旧復興関連業務の従事者も多く林業の作業員が不足しているため、地拵え等の作業に係る労務量を抑えられる一貫作業システムの普及に取り組みました。

普及に当たっては、森林資源造成支援事業を活用し、今年度は都路地区で1.88ha、船引地区で0.58haを実施し、次年度も都路地区と船引地区で実施予定です。

一貫作業システムによる森林整備が普及することで、この地域の一般的な作業システムとなれば作業員不足の解消等にも寄与すると考えています。

広葉樹林再生事業施行地

⑶　早生樹の導入

田村市では令和２年11月に民間のバイオマス発電施設が竣工するなど、新たな燃料用チップなどの木材需要が見込まれているため、早生樹の導入を田村森林組合と協力し検討しました。

令和元年度に船引地区で植栽したコウヨウザン0.33haの成長をモニタリングし、普及につながるデータを取りまとめることとしました。

植栽木の一部で、野ウサギの食害と思われる痕跡も見られましたが、ほぼ順調に生育し、枯れてしまったものは確認されませんでした。

今後もモニタリング調査を継続し生育状況や病虫獣害等の状況を観察しながら、早生樹の普及を検討していきたいと考えています。

コウヨウザン植栽木

３　今後の対応

放射性物質の影響を受けた広葉樹の更新を図りながら、きのこ原木林の再生に取り組むとともに、一貫作業システムの普及による作業の省力化と早生樹の導入を一体的に進めることで、田村市における森林整備が進み、林業の復興につながっていくものと考えております。

森連だより

会員紹介：南会津森林組合の取組について

「ご覧いただいてます皆様、こんにちは。」

動画配信サイトから流れてくる映像と音声に、思わず「こんにちは。」と挨拶を返しそうになりつつ、南会津森林組合の取組事例の発表が始まりました。

南会津森林組合では、令和元年度に農林中央金庫が実施した「公益信託　農林中金森林再生基金」に採択され、一年を掛けて実施したその成果発表が令和三年一月二五日に配信されましたので紹介します。

通称、農中森力（もりちから）基金と呼ばれるこの事業は、国内の荒廃した民有林の再生により、森林の公益性を発揮させることを目指した活動に対して助成を実施するもので、県内では初めての事例となります。

今回紹介します南会津森林組合は、平成二七年に三つの森林組合が合併・設立し、管内面積は約八八、七〇〇（ヘクタール）で、そのうちの九二（パーセント）を占める森林を管理しています。森林資源が豊かな地域ですが、森林所有者の不在村化・高齢化等により多くの森林では整備が行き届かず放置され、公益的機能の低下が課題となっています。

今回の事業では、ドローンや地上レーザーを用いて、森林の総体的なデータの取得と、地形に適した作業システムによる林分整備を行うことで、地域の木材需要も睨んだ効果的な森林管理と供給体制の構築による森林の再生、多面的機能の発揮を目的としています。

中でも特筆すべき点としては、生業としての林業の活性化だけでなく、森林生態系の保全や防災機能の充実として環境林の整備も重要な柱として位置付け、関係者のみならず地域全体での持続的な森林づくりのビジョンを共有していることです。

今回の取組みの根幹であり、発表の中でも紹介された印象的な言葉があります。それは、事業対象地となった月田農園の月田さんが抱く森への想いです。月田さんは環境保全への想いが非常に高く、森を単なる森林としてではなく、下層植生や微生物・昆虫・鳥・動物で一つの生命体を成し、森に生かされている人間はその代表として、森の環境を守り維持していく責任があるというものです。

発表をする南会津森林組合 河原田氏（右）と
NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 松澤氏（左）

今日、森林・林業を取り巻く現状としては、製材工場の大型化やバイオマス発電所の稼働に伴う木材の需要が高まりつつあり、林業・木材産業にとっては追い風ともいえる状況ですが、私たち関係者が扱う森林・木材というものの成立速度と消費速度が適切なバランスを描けているかと言うと、疑問が残ります。

こうした現状に対し、今回の取り組みはまさに林業という地域性と、公益性を生かしたものと言え、これからもこうした素晴らしい取り組みを実施している会員組合を紹介していきたいと思います。

きのこセンターだより

県内外へ向けたＰＲ活動の取組

㈳福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

令和二年度も県内外へ向けて、様々なきのこのＰＲ活動に取り組んできました。ここでは、その取組の一部をご紹介します。

一　きのこ品評会に代えて

当センターは毎年、福島県林業祭の併催行事として「福島県きのこ品評会」を開催しています。品評会には、県内のきのこ生産者から多くの出品をいただき、審査及び表彰を行っています。審査後、林業祭にて公開展示された後、即売されることから、品評会を毎年楽しみにされる来場者もいました。しかし、昨年度は台風により林業祭自体が中止になり、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年とは別会場でシンポジウムのみ行われました。

そこで、当センターでは県きのこ振興協議会と連携して、これまでの品評会で農林水産大臣賞を受賞している方々にご協力をいただき、シンポジウム会場で「選りすぐり」のきのこの展示と加工品のＰＲを行いました。イベントは「第四五回福島県林業祭（パネルディスカッション）集え、若き杣人！～林業担い手討論会～」で、令和二年十一月十五日、福島県男女共生センター（二本松市）を会場に約一〇〇名が参加して行われました。

会場入口に、平成二九年度農林水産大臣賞を受賞された大野一宏さん（天栄村・菌床しいたけ）と平成三〇年度農林水産大臣賞を受賞された箭内幸一さん（田村市・原木しいたけ）の作品を展示しました。お二方とも会場を訪れてくださり、イベント参加者と交流されていました。スーパーではお目にかかれない立派なしいたけに、来場者は感嘆の声を上げていました。このように生産者と消費者の交流の場を設けることは、その安全性と美味しさをＰＲし、きのこの生産振興につながる大切な取組と考えます。

「選りすぐり」のきのこに見入る参加者

試食販売「たっぷりきのこの炊き込みご飯定食」

二　ふくしまプライド。ＰＲ事業

県外へ向けたＰＲ活動としては、当センターが事務局を担当する福島県きのこ振興協議会が主催し、日本橋ふくしま館「ＭＩＤＥＴＴＥ」（東京都中央区）できのこやきのこ加工品、きのこ定食の試食販売を行っており、今年度は昨年十二月四日から本年二月十四日にかけての四回計八日間実施しました。

生きのこは、しいたけ、なめこ、まいたけやエリンギなど、乾燥ものはしいたけやエリンギを販売しました。加工品は「ふくふくしめじ炊き込みご飯の素」を数量限定で完売しました。「ふくふくしめじ」とは、福島県で自然栽培に成功した「ほんしめじ」の愛称です。十一月頃の季節限定で収穫できるきのこなので、より長い期間消費者の目に触れて頂くよう、さらに加工品の開発を考えています。

きのこ料理の試食販売（メニューについては左記の表を参照）は、一日四十食限定で一食五〇〇円（税込み）で提供しました。十二月四日、五日には「ふくふくしめじ」を使用したメニューとなり、好評のうちに完売しました。他の日程のメニューも、健康志向の高まり等により全て完売となりました。

消費者にきのこを「日常食」として認識してもらい、きのこを食べる機会を増やしてもらうこと、いまだに残る風評払拭のためにも、今後とも福島県産きのこのＰＲ活動に取り組んでまいります。

ＰＲ事業試食販売の内容

イベント日程	料　理　名	メニュー内容
12月４日、５日	福結び。たっぷりきのこの炊き込みご飯定食	たっぷりきのこの炊き込みご飯
		ふくふくしめじのお吸い物
		なめこの寒天寄せ
12月17日、18日	福結び。たっぷりきのこのカレーライス定食	たっぷりきのこのカレーライス
		キノコのシンプルマリネサラダ
		きくらげとリンゴのヨーグルト　デザート
１月15日、16日	福結び。たっぷりきのこの洋風炊き込みご飯定食	たっぷりきのこの洋風炊き込みご飯
		きのこスープ
		サラダと乾しシイタケ　ドレッシング
２月13日、14日	福結び。たっぷりきのこの洋風炊き込みご飯定食	たっぷりきのこの洋風炊き込みご飯
		きのこスープ
		サラダと乾しシイタケ　ドレッシング

木の文化を育む㉔

こおりやま開成の杜 復活プロジェクト

郡山女子大学ＮＬＳ（ナチュラルライフスタイル）部
郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿 部 恵利子

○はじめに

近年、ライフサイクルの変化に伴い、荒廃が進んでいる森林が増えてきています。かつて地域住民の生活と密接に関わりながら循環・継続し、維持されてきた森林を私たちが守り育て、未来に継承していくためには、どうすべきか。森林からの様々な恵みを享受し続けるためには未来を見据えた森づくりが必要です。

○こおりやま開成の杜

学校法人郡山開成学園では鞍手山・高土山・石筵・安子ヶ島の四つの杜（東京ドーム約十四個分）を〝こおりやま開成の杜〟と名付け、一九九六年より「檜」「杉」を合計二一、四〇〇本植樹してきました。また、磐梯熱海の石筵地区には郡山開成学園総合教育園（以下「総合教育園」）があり、約二〇年前は山岳部の合宿などで利用されていましたが、近年は老朽化により使用されず、現在では地面をイノシシなどの野生動物に荒らされるなど、荒廃が進み、かつて賑わっていた学生たちの活動の場とは異なる状況となっています。

二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災以降は、福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響で、森林の活用が難しい状況でしたが、昨年度実施した調査により、安全性が確認されたことで、今後の森林利用のためのプログラムづくりを検討する事となりました。

○郡山女子大学ＮＬＳ部の活動

郡山女子大学ＮＬＳ部では、昨年度より、福島県の森林自己学習支援事業において、〝こおりやま開成の杜 復活プロジェクト〟を立ち上げました。このプロジェクトは総合教育園を、森林を活かした体験学習の場とするために、安全調査と環境調査を実施し、安心して利用できる学習や遊び場づくりを目指しています。今年度は、動植物や野鳥、きのこの調査、除伐作業、巣箱の再設置、森林レクリエーション活動、熱海町竹ノ内地区のおっぱなし山学校の視察を行いました。

○動植物・野鳥・きのこの調査

総合教育園は、約三万坪、標高四二〇㍍の敷地で、様々な種類の樹木が混在しており、きのこも生える自然豊かな環境です。土壌・きのこ・植生の調査の他、土壌や木の葉等の環境放射線量や放射性セシウム濃度を測定、さらに動物が水を飲みに来る水場と林の中に自動撮影カメラ（TREL10J）を設置し、動物の定点観測を行いました。

今年度採取したきのこは、調査時期が異なるため、昨年度とは種類の異なるきのこが確認できました。サンコタケ、タケリタケ、ロウタケ、カメムシタケなど、珍しいきのこもみられました。

分析したほとんどのきのこは放射性セシウム濃度が低く、食品の基準値を超えたきのこは、カワリハツ107Bq／kg、チギレハツ148Bq／kgであり、いずれも菌根菌でした。

野生動物の定点観測では、リス、イノシシ、カモシカ、サル、クマ、アナグマ、ネコ、キジ、タヌキ、ヤマバト、ネズミなど、昨年度よりも多くの動物を確認することができました。

○まとめ

森林をフィールドとした総合教育園……今後、郡山女子大学ＮＬＳ部では、薬木を植える、原木にきのこの種駒を植える、シダレグリを植える、などの活動を計画しています。また、きのこや動物などの環境調査・安全性評価を継続して行い、総合教育園を安全で楽しい場にするために、積極的に活動していく予定です。

福島県民一人ひとりが、森を支え、守り育てる楽しみを分かち合える場ができることを願います。

巣箱の再設置と除伐作業

木材市況

十一月の原木市場への入荷量は、前月比一七パーセント増（前年比一八パーセント減）の二二、四八三立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一七パーセント増（前年比一九パーセント減）の二二、〇二五立方メートルとなっている。

十二月の価格は強含みとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2020年12月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	8（5～10）	0	（0～0）		10（10～10）	0	8（5～10）	0
		10～14		並	スギ	13（12～14）	1	（0～0）		12（11～12）	0	12（11～14）	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（12～14）	1	14（14～14）	0	13（13～13）	0	13（12～14）	0
				並	ヒノキ	15（15～15）	0	（0～0）		16（16～16）	0	16（15～16）	1
			6.00	並	スギ	16（15～16）	0	10（10～10）	0	17（17～18）	0	15（10～18）	0
				並	ヒノキ	24（24～25）	0	（0～0）		22（20～24）	0	23（20～25）	0
		20～28	3.65	並	スギ	12（12～14）	0	11（10～12）	0	13（12～13）	1	12（10～14）	0
			4.00	並	スギ	12（12～12）	0	10（10～10）	0	13（12～13）	1	12（10～13）	0
				並	アカマツ	10（8～12）	0	（0～0）		9（9～10）	0	10（8～12）	0
			1.80	並	アカマツ	7（5～9）	0	（0～0）		8（8～8）	0	7（5～9）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		30（30～30）	0	30（30～30）	0
				並	米マツ	28（28～28）	0	30（30～30）	0	28（28～28）	0	29（28～30）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	0	（0～0）		7（7～7）	0	7（7～7）	0
				並	広葉樹	10（10～10）	0	（0～0）		（0～0）		10（10～10）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	0（0～0）	0	7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	0（0～0）	0	8（7～9）	0
	16以上		並	カラマツ	0（0～0）	0	11（10～11）	1

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

双葉郡の新しい名産品探し

福島県相双農林事務所富岡林業指導所　小川　潤

東日本大震災から十年経ち、双葉管内では、現在、新たな試みが盛んに行われています。

例えば、農産物関係では広野町の皮ごと食べられるバナナ栽培、楢葉町のサツマイモ栽培、富岡町と川内村ではワイン用ブドウ栽培、大熊町のイチゴ栽培等の新たな名産品を生み出しています。

このなかで、富岡町のブドウ畑は私の住んでいる場所から近く、太平洋を見下ろす高台にあるブドウ畑は見学することができます。ただ、興味があっても手に入れることができず、ワインを未だに飲めていません。（まだ生産量が少なく、一部では幻のワインと呼ばれているらしい…）

農産物以外にも様々な新名物があります。例えば、浪江町の「道の駅なみえ」では「なみえ焼きそばソフト」が販売されています。トッピングに一味唐辛子をかけて食べるというスタイルで意外と甘いものに一味唐辛子が合います。私の語彙では味をうまく表現できないため、興味があればぜひお試しください。

コロナの影響で外出することが難しい状況下ですが、状況が落ち着いたらぜひ双葉郡に訪れてみてください。

はなしのひろば

星、きらめく

二〇一二年三月、仙台市天文台は、プラネタリウム番組「星空とともに」を公開した。十年前の三月十一日の夜、停電で一切の灯りが消え、見事なまでに美しかった星空を、実に多くの人々が見上げていた。がれきの間から、閉じ込められた家の窓から、避難所から、不安と寒さに震えながら眺めていたという。その事実から、天文台は「あの日を境に、星はただの観察の対象ではなく、震災の記憶のひとつとして、三・一一の星空を残したい。」と番組を制作。いつしか人々は、星の光をあの時亡くなった人たちの魂と重ね合わせるようになっていた。「人が亡くなったら星になる」は、自然に発生した信仰的な思いだ。漆黒の闇に輝く美しさでいつも上から見守ってくれている…と信じ、心が強くなれるのだ。そして、天文台は、二〇一九年三月から第二章「星よりも、遠くへ」を公開している。

東日本大震災から十年。陸前高田のお花やさんは「あの当時二、三年は仏花だけだったが、やっとお祝いのお花がたくさん出回るようになってきた。」と話された。また、野口健氏（アルピニスト）は、様々な災害活動を通し「災害に強い人づくり」を、ＪＡ共済は「絆、という備え」を強調している。

それぞれが、それぞれの生業を通して肌で感じている復興。それが人々の心の復興であったり、町の復興だったりする。

しかし、わがふるさと福島県には、今でも他の被災二県にはない「帰還困難区域」が存在する。改めて、福島第一原子力発電所事故の何たるかを思い知らされる。

（都）

表紙の写真

「今日も頑張った」
第17回ふくしま森林・林業写真コンクール　優秀賞
受賞者　涌井礼子さん（福島市）
撮影場所：福島市　水林自然林
コメント：木を伐採する時の緊張から解き放されてホッとした笑顔が素敵だった。

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

○野生山菜等の採取及び出荷・販売について

今年も山菜の季節となりました。国から出荷を制限されている市町村から採取された野生山菜等は出荷・販売、飲食店や宿泊施設などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。なお、野生山菜等の出荷制限については福島県林業振興課のホームページで最新の情報をご確認ください。検索ワードは「福島県　山菜　出荷制限」です。

(https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo monitoring.html)

また、出荷が制限されていない市町村で出荷を希望する場合は、出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。

安全な野生山菜等の流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

○連絡先一覧

市町村名	事務所名	住所・連絡先
福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡・安達郡の町村	県北農林事務所（森林林業部）	福島市杉妻町２－16（福島県庁北庁舎５階） 024－521－2632
郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡・石川郡・田村郡の町村	県中農林事務所（森林林業部）	郡山市麓山一丁目１－１ 024－935－1367
白河市、西白河郡・東白川郡の町村	県南農林事務所（森林林業部）	棚倉町大字関口字上志宝50－１ 0247－33－2123
会津若松市、喜多方市、耶麻郡・大沼郡・河沼郡の町村	会津農林事務所（森林林業部）	喜多方市松山町鳥見山字天神６－３ 0241－24－5734
南会津郡の町村	南会津農林事務所（森林林業部）	南会津町田島字根小屋甲4277－１ 0241－62－5375
相馬市、南相馬市、相馬郡の町村	相双農林事務所（森林林業部）	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244－26－4305
双葉郡の町村	富岡林業指導所	富岡町小浜553－２ 0240－23－6084
いわき市	いわき農林事務所（森林林業部）	いわき市平字梅本15 0246－24－6193

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

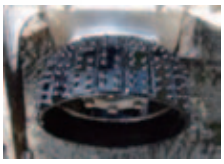
傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- 最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- 全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- 大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載

- 5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- 感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- 樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- 材積集計機能を標準で搭載

新開発のスタッドローラ（オプション）



- 鉄輪の全周に装着された無数のスタッド（鋲）が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- 特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
http://www.iwafuji.co.jp/

（南東北支店） 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
（支　　店） 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 三月号 通巻第六七九号
令和三年三月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

新商品　**猪レスSTOPテープ**　**ヒルノックWスプレー**　**ヒルノックW**

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1−19−10　お問い合わせ TEL. 03(6740)7777　平日 9:00〜17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1